

8 施設・設備等

【目的・目標】

専門に特化した最先端の教育・研究設備、機器を導入するとともに、学生が安全で快適な環境で教育を受け、また教員がより効率的な研究を行える施設・設備を整備することにより、各学部・学科の教育目標を実現することを目的とする。これを推進するため、適切な計画立案、既存の施設・設備の維持及び衛生・安全の管理を円滑に運営できる組織体制を構築する。

8 - 1 大学・大学院における施設・設備等

【現状の説明】

本学のキャンパスは厚木キャンパスと中野キャンパスからなる。従来、厚木キャンパスは工学部全学年・工学研究科及び芸術学部1、2学年、中野キャンパスは芸術学部3、4学年及び芸術学研究科が使用していたが、女子短期大学の廃止による定員変更、メディアアート表現学科・アニメーション学科といった新学科設置（全学年厚木キャンパスに設置）などにより、年々、厚木キャンパスにおける芸術学部の使用割合が増加している。

厚木キャンパスは中野キャンパスより学生数が圧倒的に多いので敷地面積も広く、施設・設備等も多い。教育目標を実現し、より教育効果を高めることができるよう、5年前から教室の整備、特にAV化、老朽校舎の建替等を精力的に行って来た。本館東棟、風工学研究センター、ナノ科学研究センター、体育館、3号館、10号館を新たに建設し、旧2号館、旧3号館を取壊した。また、1号館、2号館、9号館、11号館を全面改修した。旧2号館跡地を広場とし、建築物の再配置が進んだため、キャンパスの景観も整備された。これらの建築物の整備に伴い、広場が設置され、学生の憩いの場となっている。また、8号館2階生協購買部の改装など学生福利厚生施設の整備も行われ、学生がより便利で快適な学生生活を送れる環境が整えられた。構内美化にも努めている。

中野キャンパスは4年前に芸術情報館が竣工したが、その他の建物は老朽化が進んでおり建替える時期に来ている。

【点検・評価】【長所と問題点】

キャンパス整備については、大学協議会の下に設置された各キャンパス整備委員会が各学科のカリキュラムや教育目標に基づく要望・意見の収集・調整や計画のとりまとめを行い、新学科の設置や年度進行に伴い必要な施設設備等の充実を目標に、新校舎の設置計画や既存校舎の再配分等具体策を検討している。

厚木キャンパスでは、2004年度の工学部再編に伴う研究室再配分等が完了している。芸術学部は2003年度のアニメーション学科設置に対応した施設設備の充実だけでなく、旧女子短期大学部校地及び校舎の活用により、既存のデザイン学科、メディアアート表現学科の施設設備を充実させた。メディアを活用した新しい授業形態に対応するためのAV化や、耐震化、アスベスト飛散防止などについては、ほぼ計画の大半の整備が完了した。ただし、

少人数制授業を実施するための小規模講義室が十分な水準ではない。

中野キャンパスでは整備計画が立案されたが、キャンパス移転等の検討が浮上したことから現在同計画は再検討中である。しかし、メディアを活用した新しい授業形態に対応するための AV 化、セミナー室の防音工事、遠隔講義システムの導入など、授業運営に資する施設・設備の更新が進んでいる

8 - 2 各キャンパスにおける施設・設備等

8 - 2 - 1 厚木キャンパス

(1) 施設・設備等の整備

【現状の説明】

(1) 校地、校舎等の状況

厚木キャンパスは神奈川県厚木市飯山にあり、校地面積は194,492 m²、校舎面積は55,441 m²である。

(2) 教室・研究室等の整備状況

厚木キャンパスでは現在、工学部全学科及び大学院工学研究科、芸術学部の1～2年次全科目及び一部学科の3～4年次の授業が開講されている。教室・研究室が設置されている敷地は、道路を挟んで東側と西側の2つに大別される。東側には本館等の講義・演習室棟や工学部各学科の演習・実験室棟、大学院工学研究科風工学研究センター棟などがある。西側には芸術学部デザイン学科、メディアアート表現学科、アニメーション学科の演習・実習室棟と工学研究科ナノ科学研究センター棟がある。情報処理機器は、本館の6つのPC演習室を中心に914台を設置し、毎年計画的に機能更新を実施し、教育環境整備が図られている。なお、各教員には研究室が整備されており、教育研究のためのスペースが確保されている。

(3) 研究機関の整備状況

工学研究科には文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業により設立された連携最先端技術研究センター、風工学研究センター、ナノ科学研究センター、ハイパーメディア研究センターの4つの研究センターがある。

特に建築学専攻が文部科学省の21世紀COEプログラムに採択されたことにより、関連する風工学研究センターの施設・設備の充実が一層進展した。図8-1に研究機関の整備状況を示す。

図8-1 厚木キャンパスにおける研究機関の整備状況(2006年5月現在)

研究センター名	研究室数	研究室 総面積(m ²)	実験・ 実習室数	実験・実習室 総面積(m ²)	その他 室数	その他室 総面積(m ²)
連携最先端技術研究センター	7	420	20	1,237	1	12
風工学研究センター	3	163	3	482	7	146
ナノ科学研究センター	1	30	6	431	12	350
ハイパーメディア研究センター	11	291	11	1,177	0	0

(4) 先端的な設備・装置

先端的な研究設備・装置の整備にあたっては、文部科学省補助金や学内助成(特別研究教育助成費)を活用して推進している。学外研究機関との連携も、前述の研究センター等が中心となり推進している。

(5) 福利厚生施設

(a) 健康管理センター

看護師が常駐し健康や生活上のさまざまな相談を受けている。毎週水曜日には精神科嘱託医師も相談を受けているが、学生本人のみならず保護者からの相談も受け、学生生活の支障となるような健康・生活上の問題を早期に解決している。2005年度の相談件数は872件である。

(b) 学生ホール・食堂施設・購買施設

学生ホールは、学生会館1階(216 m²)、8号館2階(350 m²)及び1号館横学生ホール(食堂共用)の3カ所設置している。学生食堂は、8号館1階「MESA」(634 m²)と1号館横「FUENTE」(477 m²)の2カ所設置している。売店は、8号館2階「SERVI」と1号館横に設置している。食堂・売店の運営はともに大学生協が担当している。

(c) 課外活動施設

体育系部活用に体育館に部室10室、文化系部活用にクラブハウス6棟を整備している。

(6) 光熱水費

図8-2に過去5年間の光熱費の状況を示す。2005年度の光熱水費は電気料金130,259千円(8,058,912kWh)、水道料金7,049千円(21,043 m³)、下水道料金18,741千円(131,418 m³)、ガス料金10,812千円(120,821 m³)であり、電気料金の軽減が必要である。

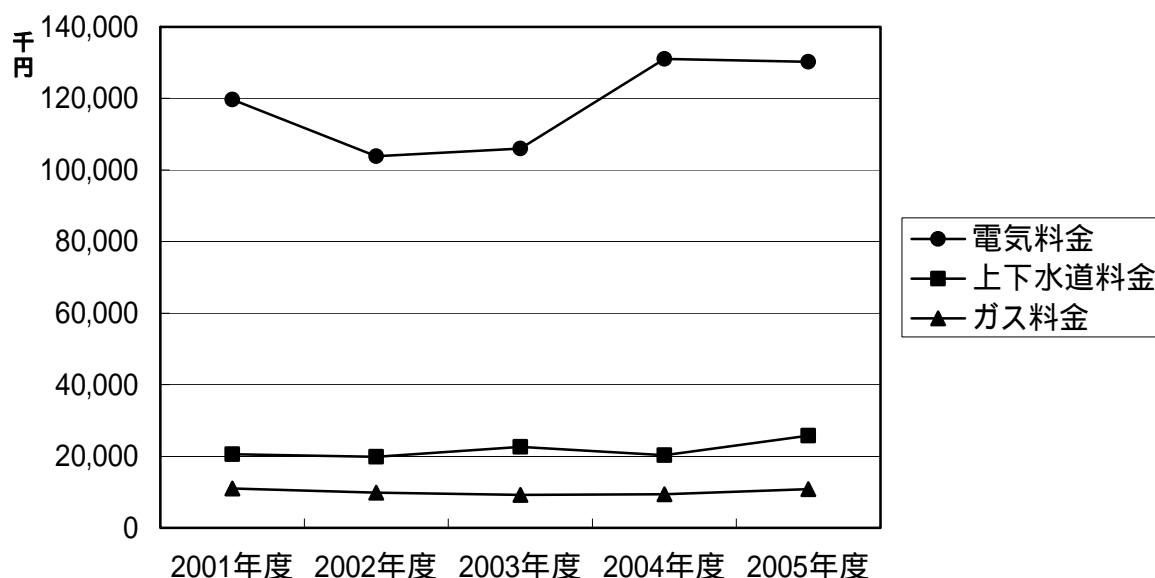


図8-2 過去5年間の光熱水費の推移

* 2004年度から旧女子短期大学部敷地の芸術学部光熱水費を合算する

【点検・評価】【長所と問題点】

(1) 教室・研究室等

学生定員100名に対して学科占有床面積を2,500 m²とする原則を立て、これに基づいて各学科への面積配分を行っている。この配分にあわせて、各学科の授業特性に対応した演

習室等の整備と、研究環境の整備を進めている。また、講義室の AV 化も補助金等の活用で整備が進み、学生の理解度増進に役立っている。しかし、少人数教育の実施が今後増加すると思われるので、それに対応した施設・設備の充実が求められている。

2002 年度に 36 室 (6,217 m²) だった講義室は、2004 年度には 40 室 (7,030 m²)、2006 年度には 44 室 (7,534 m²) に増加している。しかし、学生総数も 2002 年度 3,408 名、2004 年度 3,658 名、2006 年度 4,330 名と増加しているため、在籍学生一人当たりの面積は、2002 年度 1.8 m²、2004 年度 1.9 m²、2006 年度 1.74 m² とやや横ばい傾向にある。

具体的な講義室の整備状況については、図 8-3 と図 8-4 に示すとおりである。

図 8 - 3 厚木キャンパスにおける講義室への AV 設備整備状況 (2006 年 5 月現在)

年度	整備講義室名	整備室数	整備内容
2003	211、311、312、511、512、513 教室	6	プロジェクタ、スクリーン、DVD、VHS、書画カメラ、等
2004	011、012、021、041、042、043、1112、1121 教室	8	プロジェクタ、スクリーン、DVD、VHS、書画カメラ、等
2005	なし		なし

* 陳腐化、老朽化した設備は随時更新中

図 8 - 4 厚木キャンパスにおける学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の整備状況 (2006 年 5 月現在)

学部・研究科等	講義室・演習室 自習室等	室数	総面積 (m ²)	専用・共用の別	収容人員 (人)	学生総数 (人)	在籍学生 1人当たり 面積 (m ²)
全学共通	講義室	44	7,534	共用	6,752	4,330	1.74
	演習室	2	86	共用	42	4,330	0.02
工学部・ 工学研究科	演習室	10	412	専用	203	2,518	0.16
芸術学部・ 芸術学研究科	演習室	2	362	専用	180	1,812	0.20
	学生自習室	1	132	専用	22	1,812	0.07
工学研究科	演習室	2	43	専用	21	107	0.40
芸術学部	演習室	2	126	専用	62	1,812	0.07
全学共通	体育館	1	1,850	共用			

(2) 工学研究科

各専攻の研究施設・設備はそれぞれの校舎に設置され、整備を進めている。特に研究環境の充実等を目的とした 10 号館に多くの研究室が移転し、設備の更新が大幅に進展したため、研究環境は格段に改善された。相次ぐ文部科学省の大型補助金事業の選定・採択はその成果の一部であり、本研究科の施設・設備の充実の度合いを示している。

先端的な研究設備の導入については、補助金等の外部資金の活用や学内の重点配分予算など、競争的資金を主として先端的な研究活動に必要な設備・装置の整備を図ることで、より効率的な整備が推進されている。

研究施設・設備の整備に伴い、設備保守費の負担も増加してきているため、高額な保守契約については、特別予算事業として厳正に審査を行うとともに文部科学省経常費補助金

特別補助申請を行い、経費抑制に努めている。設備保守費の特別予算事業採択金額は2003年度36,036千円、2004年度24,598千円、2005年度21,952千円である。また、整備された研究設備の効率的な使用や、外部資金の使用可能期間が終了した後の維持・管理コストの負担などについて、運用ルールが確定していない。

工学研究科における研究装置・研究設備の整備状況を図8-5に示す。

図8-5 工学研究科における研究装置・研究設備の整備状況(2006年5月現在)

年 度	装置・設備名	事業経費(千円)	合 計
2005	テストワークベンチ	9,950	81,761
	非接触光学式薄膜計測システム	20,976	
	ゴニオフォトメータ	6,000	
	X線-DSC測定アタッチメント	12,600	
	2次元色分布測定装置	5,775	
	E L特性測定システム	8,961	
	有機E L寿命測定装置	7,299	
	封止樹脂硬化用搬送装置	5,197	
	蛍光リン光分光光度計	5,003	
2004	多光子励起ナノ光造形装置	39,900	39,900
2003	ガスクロマトグラフ質量分析装置	18,336	18,336

(2) キャンパス・アメニティ等

【現状の説明】

(1) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

学内環境整備は厚木キャンパス整備委員会で調整し、法人事務局管理課が実施している。

(2) 「学生のための生活の場」の整備状況

学生のための憩いの場として、キャンパス中央部に広場を設け、その周囲に各種施設が配置され有効利用されている。学生ホールは学生会館1階、8号館2階及び1号館横学生ホールの3カ所設置している。学生食堂は8号館1階と1号館横の2カ所設置している。売店は8号館2階と1号館横に設置している。クラブハウスは体育系のサークルが新体育館内に移動したため、文化系サークルが利用している。広場は旧2号館跡地に設置している。

(3) 大学周辺の「環境」への配慮の状況

新校舎等の建設にあたっては周辺住民との協議や、周辺環境への影響等のシミュレーションの外部依頼等により、環境悪化をできるだけ軽減できるよう努力を重ねている。また、大学周辺の住宅地への学生による違法駐車指摘されて来たため、警備員の巡回によりその減少を図っている。

【点検・評価】【長所と問題点】

大学と学生との意見交換の場である学生連絡評議会で学生側から出された環境改善の要望・提案に対しても可能な限り実現できるよう、キャンパス整備委員会で検討しており、

学生の声を生かしてキャンパス・アメニティを形成・改善する体制が確立されている。

学生ホールやクラブハウスについては、一部老朽化が進んでおり、学生の利用状況にも影響を及ぼしている。食堂はカフェテリア方式、ビュッフェ方式の2とおりの利用方式が採用され、学生の選択に幅を広げている。売店は面積を倍増し、ほぼ満足のゆく品揃えが可能になった。学生ホールやクラブハウスについては、一部老朽化が進んでおり、整備課題となっている。

(3) 利用上の配慮

【現状の説明】

現在車椅子等の補助具を用いる障害を持つ学生が在籍していないため、キャンパスバリアフリー化プランはまだ具体的には策定されていないが、エレベータ、スロープ、点字ブロックの整備を順次進めている。

また、体育館、グラウンド、教室などの学内施設は、必要な手続きをすれば、平日及び日曜・祝日を含め早朝から夜間まで利用可能となっている。詳細はキャンパスガイドに記載している。

【点検・評価】【長所と問題点】

キャンパス全体としてはまだ十分とはいえないが、随時整備が進んでおり、着実に教育環境の整備が進んでいるが、今後も引き続き整備を進めていく必要がある。なお、主要な建築18棟のうち、すでに10棟は「神奈川県福祉の街づくり条例」に適合している。

学生の学内施設の利用状況は活発で、サークル活動に役立っている。

(4) 通学環境の改善・整備

【現状の説明】

最寄り駅から大学まで徒歩通学が困難な距離であるため、主な通学手段は、バスや自転車(駐輪場約650㎡有)、自動二輪(駐輪場約500㎡有)や自動車(駐車場約2,600㎡有、利用条件付き)である。バスは大学が路線バスの終点であり、学生の半数近くが利用している。近年、自転車や自動二輪による通学者が増加している。

【点検・評価】【長所と問題点】

新学科等の設置によるキャンパス在籍学生の増加による混雑度の上昇や、厚木市街の交通渋滞による遅延など、バス通学の不便さが学生の大学生活に対する不満につながっている。自転車等の利用はバス便の混雑緩和というメリットはあるが、学生の増加に対応した駐輪場等の拡充が必要となることに加え、定期的な交通事故防止の講習会開催を行っているものの、交通事故増加の不安などがある。

(5) 組織・管理体制

【現状の説明】

キャンパス環境の整備全般については、大学協議会の下に設置された厚木キャンパス整備委員会が連絡・調整を図り、検討された事項の執行や既存施設・設備の維持管理については法人事務局管理課が担当する体制で行われている。実験等での安全確保や廃棄物の管理等については、環境安全管理委員会で検討し、実務面や管理システムの運用は法人事務局管理課が担当している。

【点検・評価】【長所と問題点】

前述のとおり体制が確立されており、キャンパス整備や施設・設備等の維持・管理は円滑に行われている。特に、工学研究科で使用する施設・設備は規模が大きいため、維持・管理コストの抑制が必要である。

8 - 2 - 2 中野キャンパス

(1) 施設・設備等の整備

【現状の説明】

(1) 校地、校舎等の状況

中野キャンパスは東京都中野区本町にあり、校地面積は 9,094 m²、校舎面積は 12,623 m²である。

(2) 教室・研究室等の整備状況

中野キャンパスでは、芸術学部の3学科の3～4年次、大学院芸術学研究科、芸術別科写真技術専修の授業が開講されている。講義型教室は本館及び4号館に配置している。1号館はデザイン学科、2号館は映像学科、3～5号館は写真学科が利用している。

教員研究室は演習室・実習室等に隣接して配置されており、学生と教員とのコミュニケーションが円滑に図れるよう整備されている。また研究室等の設備は、最新の芸術手法・技法に対応できるよう補助金等を活用しながら機器・装置の導入や更新を進めている。

本キャンパス特有の教育施設として、スタジオがある。スタジオには「写真スタジオ」、「映像スタジオ」、「バーチャルスタジオ」の3種類がある。「写真スタジオ」は全4室で総面積は282 m²、各光源に対応している。「映像スタジオ」は大手映画会社が製作した室内セットを用いており総面積156 m²で設置されている。「バーチャルスタジオ」は先端デジタル技術を用いた撮影に対応している。また写真処理暗室を9室設置している。

(3) 芸術学研究科における施設・設備整備状況

大学院芸術学研究科の講義・演習は中野キャンパス本館06教室や、芸術情報館内のセミナー室を使用している。セミナー室の防音工事や、遠隔講義システムの導入など、授業運営に資する施設・設備の更新が進んでいる。教員の在籍キャンパスが2つに分かれているため、一部授業科目では厚木キャンパスとの遠隔講義を実施している。芸術情報館には大学院研究室が設置されており、院生の研究・制作活動の場を提供している。

メディアアートに関連した教育効果の向上のために、図 8-6 に示すように講義室への AV 設備を整備した。老朽化した設備は随時更新している。講義室、演習室等の整備状況を図 8-7 に示す。

図 8 - 6 中野キャンパスにおける講義室への AV 設備整備状況 (2006 年 5 月現在)

年度	整備講義室名	整備室数	整備内容
2003	01,02,03,04 教室	4	プロジェクタ(01,02,03),スクリーン(04), DVD,VHS,書画カメラ(02,04),等
2004	05,06 教室	2	プロジェクタ,DVD,VHS
2005	なし		なし

図 8 - 7 中野キャンパスにおける学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の整備状況 (2006 年 5 月現在)

学部・研究科等	講義室・演習室・自習室等	室数	総面積 (m ²)	専用・共用の別	収容人員	学生総数	在籍学生 1人当たり面積 (m ²)
芸術学部	講義室	8	1,156	専用	1,039	604	1.91
	演習室	15	841	専用	-	604	1.39
	学生自習室	38	2,051	専用	-	604	3.4
芸術学研究科	講義室	1	64	専用	45	31	2.06
	演習室	5	140	専用	-	31	4.54
	学生自習室	2	126	専用	-	31	4.06

(4) 芸術情報館の整備状況

芸術情報館は、大学院等の教育研究機能と、大学の情報公開や社会貢献機能とを併せ持つ施設である。館内にはメインホール(240名収容)、ギャラリー、AV セミナー室、メディアテーク(パソコンルーム)、大学院研究室、セミナー室、展示室、会議室等が設置され、多目的な用途に対応できるよう視聴覚設備等を整備している。

(5) 福利厚生施設

(a) 保健室

学生のアクシデントに学内の看護師が対応している。また、週1回嘱託医による相談を実施し、学生の心身のトラブルや悩みに対応している。

(b) 学生会館

学生会館は2階建、総床面積354m²で、1階が売店、2階が芸術食堂「ルネッサンス」(座席数99席)となっている。運営はともに大学生協が担当している。

(c) 課外活動施設

学友会に中野支部所属団体の活動用部室を10室貸与している。

(6) 光熱水費

2005年度の光熱水費は、電気料金21,188千円(1,101,435kWh)、水道料金5,498千円(12,099m³)、下水道料金3,628千円(12,609m³)、ガス料金1,639千円(19,955m³)で、電気料金は厚木キャンパスの16%程度である。

【点検・評価】【長所と問題点】

中野キャンパスは2001年度に芸術情報館が竣工して以来、校舎の増築がなく、また学生数も3学科の3・4年生と大学院生という構成が変わっていないことから、講義室面積に対する在籍学生一人当たりの面積は1.92㎡である。

情報文化発信の中心地である東京に位置するキャンパスの立地環境は、メディアアーティスト育成という学部目標に大きくプラスになると思われる。一方、キャンパスの狭隘さからくる施設・設備の整備には限界がある。

建物の耐震補強工事等は継続して実施してきたが、全体として老朽化が進行している。この問題に対応すべく中野キャンパス整備委員会で整備計画が策定されたが、キャンパス移転等の検討が浮上したことから、現在同計画は移転も踏まえ再検討されることになっている。

(2) キャンパス・アメニティ等

【現状の説明】

(1) キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

学内環境整備は中野キャンパス整備委員会で調整し、法人事務局管理課が実施している。

(2) 「学生のための生活の場」の整備状況

学生食堂は、学生会館2階に設置している。売店は、学生会館1階に設置している。学生ホールとして、2号館1階にピロティを設置している。また中庭にテーブル等を置き、晴天時に学生が歓談等に利用できるようにしている。健康増進法施行や学生連絡評議会で学生の要望を受け、2003年9月よりキャンパス建物内を全面禁煙とした。

(3) 大学周辺の「環境」への配慮の状況

キャンパスが住宅街にあるため、授業や学生の課外活動等で周辺住民に迷惑をかけないように、室外機の騒音軽減や時間外利用届出の徹底などを実施し、配慮している。

【点検・評価】【長所と問題点】

大学と学生との意見交換の場である学生連絡評議会で学生側から出された環境改善の要望・提案に対しても可能な限り実現できるよう、キャンパス整備委員会で検討しており、学生の声を生かしてキャンパス・アメニティを形成・改善する体制が確立されている。

キャンパス・アメニティ整備に当たっては、キャンパスが住宅街の中にあるため、近隣には十分な配慮が必要となっている。

(3) 利用上の配慮

【現状の説明】

現在車椅子等の補助具を用いる障害を持つ学生が在籍していないため、キャンパスバリアフリー化プランはまだ具体的には策定されていない。

【点検・評価】【長所と問題点】

敷地が狭隘で建物が老朽化しているものが多く、エレベータやスロープ等の設備等が殆ど整備されていない。

(4) 組織・管理体制**【現状の説明】**

キャンパス環境の整備全般については、大学協議会の下に設置された中野キャンパス整備委員会が連絡・調整を図り、検討された事項の執行や既存施設・設備の維持管理については法人事務局管理課が担当するといった体制で行われている。またキャンパス内の安全管理権限者として、危険物取扱主任者、防火管理責任者、電気主任技術者が任命され、施設・設備の安全管理を実施している。

【点検・評価】【長所と問題点】

前述のとおり体制が確立されており、キャンパス整備や施設・設備等の維持・管理は円滑に行われている。

キャンパス内の施設・設備等の一部では竣工時期が古く、基礎資料となる竣工図面や施設・設備現況表が欠損している場合がある。

8 - 3 情報インフラ

【目的・目標】

各学部・学科の教育目標の実現と研究支援のため、教育・研究に不可欠な情報ネットワーク・システムの更なる整備充実を図る。

【現状の説明】

(1) 学務情報インフラ整備

2005年度から、段階的にすべての事務システムをオフコンからブラウザ操作によるシステム「GAKUEN」に移行した。また、教員と事務間、学生と事務間においても同様にブラウザ操作によるシステム「Universal Passport」を導入し、学務情報インフラを整備した。また、教職員用には、学内専用のグループウェアとして「サイボウズ」を導入し、スケジュール管理や教学関係を中心としたファイルの共有などを行っている。

(2) 学内のPC・サーバ環境

利用登録されているPCの台数（事務系を含む。PC演習室を除く）は2,500台を超えており、それらを接続する情報インフラ等の施設については、情報処理教育研究センターが管轄している。図8-8に厚木キャンパスと中野キャンパスのネットワークシステムを示す。学内のサーバ環境は、セキュリティ及びユーザの利便性を考慮した構成となっている。キャンパス内LANを充実させ、無線LANアクセスポイントを整備した。キャンパス間の接続回線を増強し、バックアップ回線の整備により耐障害性を高めている。

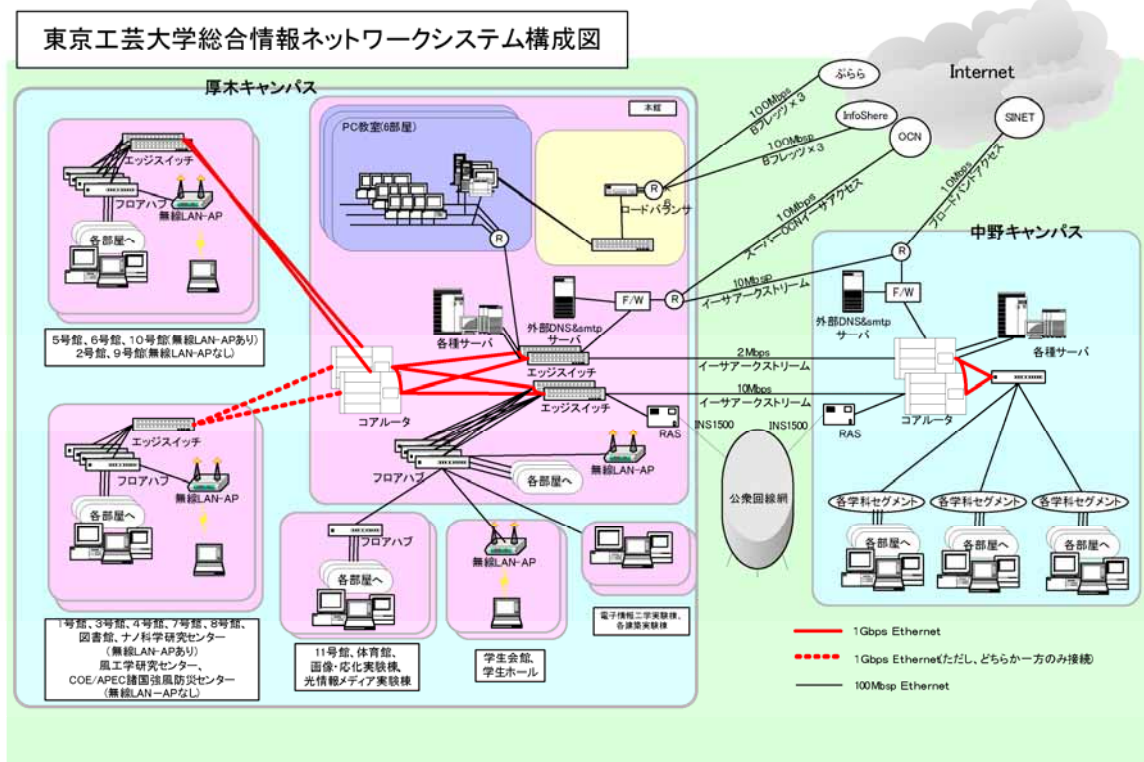


図8-8 東京工芸大学の総合情報ネットワークシステム構成図

(3) インターネット利用（通信）量

学内からのインターネット利用（通信）量は、年々大きく増加する傾向にある。厚木キャンパスは規模の違いにより、中野キャンパスに比べ数倍のインターネット利用がある。PC 演習室は、主な使用用途が WEB 閲覧であるため、インターネットから大学内へのダウンロード通信量が多い。図 8-9 と図 8-10 に両キャンパスの通信量を示す。

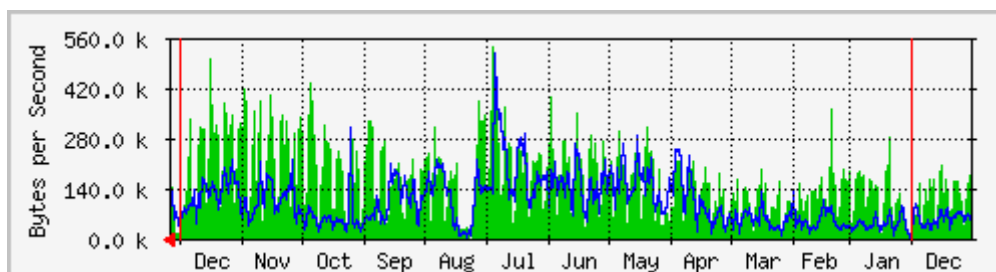


図 8 - 9 厚木キャンパスにおけるインターネットの通信量(2005 年)

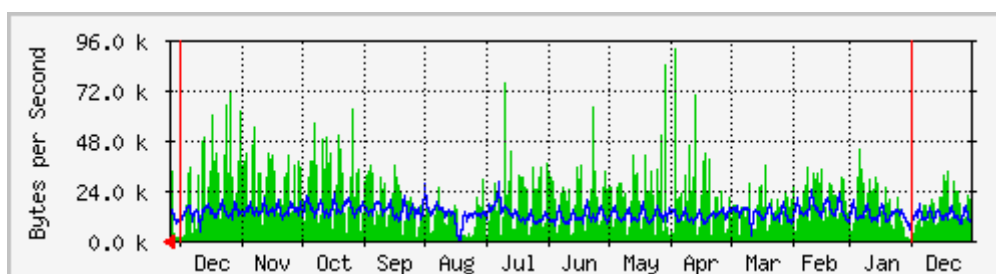


図 8 - 10 中野キャンパスにおけるインターネットの通信量（2005 年）

(4) セキュリティー対策

大学とインターネットとの接続は、耐障害性及び通信量の分散を備えたマルチホーム接続の構成である。大学とインターネット間にはウイルス防御システムを再構成し、WEB 閲覧、電子メール、FTP における内外の通信にてウイルス防御を強化した。また、外部アクセスの多い PC 演習室のインターネット接続回線は安価な別回線とすることで、高速かつ安定した利用環境を実現している。

(5) 情報化推進特別経費による整備

私立大学等経常費補助金特別補助(高度情報化推進特別経費 - 情報通信設備)「像情報教育研究支援システム」の補助金を利用して、情報ネットワーク・システムを整備した。

【点検・評価】【長所と問題点】

(1) 学務情報インフラ整備

管理部門においては、共通のシステムが導入されたことにより、キャンパス間で一元的な処理が効率よく行われるようになった。教学部門においても業務の効率化が図られているが、教務関係は複雑な履修規程に合わせたプログラムの開発が困難なため、十分な運用がなされていない面もある。

(2) インフラ整備における今後の課題

サーバの利用動向としては、ログイン可能なサーバにリモートログインし、作業を行う

例は年々減少し、電子メール及びホームページの利用のための POP、FTP アクセスが増加している。サーバ設備の老朽化によるハードウェア故障の増加や、保守サポート期間終了などによるリスク増が今後の課題である。

キャンパス間接続においては、今後事務システムでの利用や学内情報配信の増加、キャンパス間での教育研究上での有益なデータ転送により利用量の増加が予測されるので、高速データ通信設備を充実させる。

厚木キャンパスでは、無線 LAN 利用回数がサービス開始より増加し、月平均 200 回程度のアクセスがある。今後、ノート PC の無線 LAN 搭載機も増えているため、要望に応じた無線 LAN 設置を検討していく。

中野キャンパスでは、芸術学部主導により高速 LAN 環境が実現されているが、運用管理の主体が情報処理教育研究センターにないことから、ユーザサポートや管理面が複雑化し、不具合発生時の処理などで問題点が多い。芸術学部主導による新中野キャンパス LAN や芸術情報館など、中野キャンパス内でのネットワークに関して、運用体制など総合的な見直しと、改善のための検討が必要である。また、LAN の接続設備も極めて悪環境に設置されており、改善の必要がある。

(3) セキュリティ対策の強化

ウイルスチェックシステムによるメール、WEB 閲覧、FTP において、ウイルス侵入防止により、インターネットを通じてウイルスが侵入することは殆ど認められなかった。しかし、USB メモリや FD、もしくはモバイル端末が外部汚染され、それを学内で接続したことによるウイルス被害は認められた。ウイルスチェックシステムは、状況に応じ、より高速化のためのチューニングを検討していく必要がある。また、学外で使用し感染した PC や USB メモリ及び FD などの使用、外部 ISP の利用等に際しての、ウイルス防御の重要性や防御方法の教育を行っていく必要がある。

(4) 計算サーバの利用状況

計算サーバ装置の CPU 使用時間は 2003 年度をピークに減少しているが、これは利用ライセンスを各研究室の PC サーバに置いて実施する傾向がでてきたためと思われる。学科で使用率が大きく異なり、利用していない学科もある。また、使用率は卒研テーマ等により年ごとの変動が大きく、利用時期も集中する傾向がある。計算サーバの管理はほぼ適正な業務体制にあると考えられる。これに対して年々重要性が高まるインターネット及びネットワークの管理・運営体制は専任事務職員 1 名に強く依存するといった脆弱性を帯びている。また、2 つのキャンパスや学部の特性に合わせた柔軟な管理・運営体制を充実する必要がある。

【施設・設備等に関する将来の改善・改革に向けた方策】

(1) 厚木キャンパスの整備

工学部旧学科の廃止やマンガ学科・ゲームコース新設に対応する新校舎を整備するとともに、時代にあった IT 環境の整備に努める。また、研究・教育環境の充実のため、施設・設備の整備や導入された施設・設備の使用状況や関連する研究成果を集約し、運用ルールを策定する。

キャンパス・アメニティについては、学生連絡評議会をとおして学生の声を収集するな

どして、学生の視点を反映させた学生会館、文化系クラブハウス、駐車場など学生福利厚生施設の充実を目指し、整備計画をキャンパス整備委員会と法人事務局管理課が連携して策定する。

また、障害を持つ学生の入学・学修に対応したバリアフリー化プランを支援策の一つとして策定し、健常者・障害者がともに学べる開かれた大学を目指す。

キャンパス内の整備だけでなく、最寄り駅からのアクセスを向上させるため、バス会社との情報交換等を密にして、直行便の増発等を図りバス利用の改善を進める。

(2) 中野キャンパスの整備

老朽化した建物の改築時に必要な代替施設を設置する場所が不足しているため、今後教育研究環境の充実を図る上では、キャンパス移転も含めた抜本的な整備計画を検討し、策定する。

(3) 情報インフラ環境の整備

情報インフラ環境の充実や効率化を図るため、従来の大型計算機や情報処理演習室の管理をメインとした集中管理型の体制を、ネットワーク・情報管理をメインとした分散管理型に移行させ、各学部・学科の特性に合わせた柔軟性や機動性を確保させる。

サーバ・ネットワーク保守費用やネットワーク障害に対する迅速な対応など、管理運営コストが年々増加する傾向にあるので、外部資金の活用やアウトソーシングの積極的利用等を検討し、コスト抑制を図る。